



人と人をつなぐ 第3の居場所へ

▲是住久美子館長

田原市図書館の是住館長に図書館運営にかける 思いを聞きました。そこには、今後20年を見据えた「人と人」とをつなぐ図書館の目指す姿がありました。

―大切にしている田原市図書館の強み

私は、就任してまだ4年目ですが、これまでの館長が、「自立して動く司書」を育ててきたので、大切に継続するよう心掛けています。運営を担う司書一人一人が、自分で考

え、何事も「まずはやってみよう」と動くことで、さまざまな企画が充実していると感じます。例えば、企画展示。何か話題になるニュースがあると、次の日にはすぐ展示が更新されます。時期を逃さない展示とともに関連する本を紹介して、皆さんに「あと一冊」借りてもらいたい、という工夫なんですよ。

図書館になかなか来られない人のために、図書サービスを届ける「アウトリーチ活動」が活発なのも特徴

の一つです。高齢者施設への「元気はいたつ便」、小学校の「移動図書館」、子育て支援施設での絵本の紹介などに取り組んでいます。

―市民に寄り添う図書館を目指して

私は図書館が、皆さんの「家庭や学校」「家庭や職場」など毎日過ごす場所に次ぐ「第3の居場所(サードプレイス)」になると良いと思っています。

図書館は、さまざまな人が利用されます。本を借りに来る方ももちろんですが、退職された方がゆったりと新聞を読みに来る、障害がある方がご自身のペースで本を探すなど、思い思いの過ごし方をしているのを、司書がゆるやかに見守っています。

社会の中で、自分の居場所をなかなか見つけられない人でも、ここに来ると独りぼっちじゃないと思えるのではないのでしょうか。利用者・司書も含めて「ゆるいつながり」がある場所。それぞれに合った居場所を探せる所だと思うので、ぜひ気軽に図書館に来てほしいですね。

一人で図書館を利用してももちろんいいですが、人とつながるイベントも多くやっています。ぜひ参加していただき、そこで新しい「ゆるいつながり」が生まれることを期待しています。

年間約18万人が訪れる中央図書館。本や新聞を読むため、静かな環境で勉強するため、探しものをするためなど、それぞれ違う目的で人が集まっています。

利用する人の中には、学生の頃は勉強のため利用していたのが、母親、父親になって自分の子と一緒に来るようになった人もいます。そして、子どもが大きくなって一人でのんびり過ごすという人もいます。年齢を重ねて利用目的にも変化が生まれ、図書館に行き続けるという人も多く見られます。

利用者、ボランティア、司書が歯車のようにかみ合い、心地良い距離感で図書館の時間は流れています。そんな「人と人」が「つながる」図書館の次の20年を、あなたも一緒に作り上げてみませんか？

あなたの毎日の生活に、そっと寄り添う「本」や「人」との出会いがそこにはあるはずです。

